

戸田康之さん『デフバスケ』（5月15日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日のお話は、デフバスケットボールのすごく珍しい新たなルールについてです。

ろう者のスポーツ、いわゆるデフスポーツにもいろいろありますよね。デフサッカーの協会があったり、デフバレーボールの協会だったり、デフ野球、デフバドミントン…など、さまざまな協会があります。その中のひとつにデフバスケットボールの協会もちろんあります。デフバスケットボール協会というのがあるんです。その団体が、今までにないおもしろいルールを作ったという話を聞きました。

デフバスケにもいろいろな大会があります。その中に「ミミリーグ」という大会があって、年に一度開かれるらしいのですが、ミミリーグはろう者も聴者も一緒に戦える大会なんです。その大会で今までにない新しいルールが試験的に採用されました。本当におもしろいルールで、他のデフスポーツには無いものでした。デフバスケに採用されたすごくいいルールなんです。

それは、「声禁止」。びっくりですよ。選手なら声を出してしまう場面がありますよね。それが一切禁止です。監督が声を出すのも禁止。ベンチの選手が声をあげるのもダメなんです。コート内で声を出すのは一切禁止。そんなルールが追加されました。デフサッカーでもデフバレーでも普通に声を出してプレーしていますが、デフバスケでは禁止されました。

バスケにも一般的なルールがありますよね。ボールを持って3歩以上歩いたら反則になって相手チームのスローインから始まるとか、それと同じです。もし声を出したら反則を取られて、相手チームのスローインになるんです。すごくいいですよ。

聴者とろう者が混合で試合をした場合、聴者が声で指示できてしまったらずるいですよ。また、ろう者にもいろいろいて、聴力によっては音は聞こえると言う人から全く聞こえない人までさまざまです。だからろう者も音に反応できてしまったらずるいということになります。ろう者も聴者も平等の新しいルールです。ろう者も聴者も同じ条件でアイコンタクトのみで戦うんです。本当に良いルールだと思います。デフバスケだけじゃなくてサッカーやバレーにも採用してくれないかなと思います。

今、私はろう学校で教員をしています。ろう学校にも取り入れたらいいんじゃないかなと思います。体育の授業でバスケをやります。小・中・高と体育でバスケがあるんです。その時に「声禁止」のルールがあったらいいですよ。ろうの子どもたちにも、補聴器を付けている子、人工内耳の子、補聴器をしない子などいろいろいます。そういう時、音が聞こえることで有利にならないように「声禁止」のルールで、みんな同じ条件でアイコンタクトで戦えるようになったらいいと思います。

全国のろう学校の体育の授業で、バスケをやる時には「声禁止」のルールが広まったらいいですね。